

幹事報告

- ・11月のロータリーレートは引き続き80円です。
- ・近隣クラブの会報、ザ・ロータリアンが届いていますので回覧します。

委員会報告

ロータリー情報委員会 新井康司委員長

- ・本日例会終了後、ファイヤーサイドミーティング各班のリーダーの方、この場にお残り下さい。

60周年記念委員会 植田英明総務・幹事

- ・本日、皆様のトレーに60周年記念委員会からのご案内を入れています。記念例会は、来年4月18日(木)にこの例会場で行います。また記念ゴルフ、物故会員追悼の日程等も記載しております。

親睦活動委員会 植田英明委員長

- ・今週の28日(日)の地区大会参加の方のバスは、JR紀伊田辺駅弁慶像前を朝7時に出発したいと思います。宜しくお願い致します

60周年記念委員会 阪本哲次記念誌委員長

- ・皆さんにお願いしています「田辺RC100周年へのメッセージ」の原稿締切が10月31日に迫ってきております。FAX・メール等でも結構ですので提出よろしくお願ひ致します。
- ・記念誌に掲載します会員の顔写真の撮影を11月8日に例会場奥の洋室にて行います。撮影はネクタイ着用をお願いします。

社会奉仕委員会 木村勝次委員長

- ・10月23日(火)に行われました暴力追放決起集会へご参加頂いた方、ご協力ありがとうございました。

60周年記念委員会 玉井洋司記念事業委員長

- ・11月2~4日に開催されます田辺・弁慶映画祭の有料分の映画のチケットを入口の机の方に多数置いています。ご利用いただける方は、帰りにお持ち帰り下さい。

プログラム



会員卓話

『回想』

吉田 透 会員

先ず、ニコニコを出して頂いた方に御礼申し上げます。昔の事を申し上げると、この頃は身内の卓話の応援に、浄財を拠出する慣習が定着しつつありますが、良し悪しは別として、10年くらい前まではニコニコは個人的な自分の身の回りに起こった出来事に、感謝を込めて出していました。これ以上言いますと、SAAからクレームがきますので、4つのテストに照らして、と申し上げ、この話は打ち止めとします。以後は私のロータリー歴を織り込みながら支離滅裂の話になります。間違いご指摘下さい。

田辺ロータリークラブが誕生したのは、1953年(昭和28年)全国2つの地区の時代で、東日本が第60地区。西日本が第61地区でした。遡って地区制を敷いたのは、日本がまだロータリーに参画していない1912年、アメリカの8地区が3年後19の地区に分割したので番号をつけ、それぞれの地区にガバナーを置いたことから始まっています。

1920年東京クラブが発足した時は、日本全国無地区で1926年までガバナーをスペシャル・コミッショナーと呼んでいました。1928年、全国1区。第70地区の時は、樺太、満州国、台湾、朝鮮が含まれていました。1941年に戦争が勃発して、日本のロータリーは解散しましたが、所々でロータリークラブの名を変えて残っていました。

戦争が終わって、1949年に国際ロータリーに復帰しています。戦後、全国で95番目に誕生した田辺クラブの祝賀会(チャーターナイト)は、現在の玉置病院の場所に市役所があって、その隣の公会堂で盛大に開催しました。チャーターメンバーは25名。テリトリーは田辺市、南部町、新庄町、白浜町、日置町でした。

私はその年25歳。料理学校の開校を1年後に控え、ロータリーの名前も知らないし、雲の上の事で全く他人事でした。ところが図らずも15年後の1968年(昭和43年)、青年会議所で三前洋さん、現名誉会員中西さんと知り合い、ご両人の推薦で、こっそり審査されJC卒業直前に入会しました。

その時は全国14地区で、福井、京都、滋賀、奈良、大阪、和歌山が、第365地区でした。翌年には大阪、和歌山が1地区として分割され、第366地区、全国で17地区になっています。

1982年、揉めに揉めて大阪の一部と大和川以南から新宮までの地域が、第264地区で、全国で26の地区になっています。

揉めた一番の原因は分割すると、今まで大阪、和歌山にガバナーをお願いしていたのが、和歌山は既にガバナーを3人出していました。田辺は創立10周年の頃、多屋平夫さんに打診があり、断ったと聞きました。それ以後も、再々田辺クラブに半強制的にガバナーの要請があり、分割されると先ず田辺が受けることになり、当時、ガバナーを受けると1千万円が必要で、殆どが個人持ちとの噂で、それに田辺がガバナーを受けると、なし崩しに県下の各クラブにも、ゆくゆくは受けざるを得なくなって、大変なことになるとの危機感もあって、近隣クラブと何回も会合を開いた結果、田辺の事情を理解し、反対に賛同してくれましたが、分割されました。案の定、1989年、畑地浩さんが会長のとき、榎本長平さんが、田辺クラブの初代ガバナーになりました。1991年に現在の第2640地区になり、全国には34の地区があります。

入会早々、私にとって初めての地区大会が大阪ロイヤルホテルであり、偶然、長老の弁護士の野本先生と

一緒に、会場に入る写真が後日の記念誌に載りました。今思うと、この頃から既に記念誌と縁があったのかなと思えました。

毎回の各会議も大抵ロイヤルホテルで開催され、いつもの地区協議会も毎年、前日に行って、その晩会長の奢りで懇親会を持ちました。

半年位経ってから出席委員長会議があり、委員長代理で始めて出席しました。ロータリーは指名されれば絶対、断れないと聞いていたので、まあ何とか成ると軽い気持ちで引き受けましたが。驚いたことに発言者は、京都、大阪中心の大学教授とか大企業の社長ばかりで、参りました。

それに汽車の中で大先輩の小野寺さんに、古いクラブの順に当てられると言われ、会議どころではなかったのを覚えています。

地区大会に写真も掲載され、幸先良いスタートだった筈が、大変なところに入った、と思うと同時にせめて3年間は辛抱して、後のことはそのうち考えようと思っているうちに、月日の経つのも早いもので、40年が過ぎて今日に至りました。

昔は日本中の実業家は、ロータリークラブに入会することが、生きがいであり、憧れの的であり、誇りであり、一つのステータスシンボルでもありました。ところが私にとっては、何となく身分不相応で、贅沢な悩みでもありました。

当初の東京クラブの週報(今の会報)は、英語で書いていたと聞きました。

田辺クラブへの入会も、理事になって始めて解ったことは、申込書を幹事から理事会に提出しても、『田辺クラブの雰囲気』に合わない、いつの間にか上手に消えていました。当時は理事会の承認を得るまでは、本人に絶対知らせないのが鉄則で、本人には判りませんでした。

その頃の地区内の各クラブも、新会員の勧誘、入会には大変な苦勞をしていました。揉めごとが絶えませんでした。推薦者が理事会も通ってもいないのに、本人に言ってしまった挙句、あいつの入会を認めなければ、わしも辞めると言うケースが多発していました。根負けした理事会は、理事役員の申し合わせで、一人や二人の反対があっても、入会を認めようというクラブも出てきました。

その頃のICGF(今のIMですが)の議題は、必ず『質か量か』で侃々諤々でした。

今は『質か量か』より、クラブを守るのに必死で退会防止委員会まで出来ました。

最近是不景気の所為もありますが、一時は例会を月2回にしようとの案も提案されるほど、RIの規制も緩和されたにも拘らず、その割りにロータリーは下り坂になってきているのは、不思議な現象です。

私の入会については、理事会で承認されたことは、薄々感じてはいましたが、全員に異議申し立ての書類が配られた時点で、当時の事務所が紀陽銀行の3階で、

ライオンズクラブと一緒にだったので、ライオンズの人から入会を聞きました。

それでも三前 洋さんと情報委員長の玉置英夫先生に、お会いするまでは、全く信じることはできませんでした。

当時の田辺クラブは、何故か増強委員会もクラブ自体も、会員の増強には無関心で、よそのクラブは増強、増強と騒いでいるのにデンと構えていました。

昔の手続き要覧は、職業分類にはかなり厳しく、各業種から一人、厳格に選ばれた代表者が、毎週一回の例会に出席することが義務であり、会員の特典でもありました。

ところが、田辺の職業分類の考え方は、割りと大まかで『雰囲気』に合致すれば、例えば、串本の殿サンと言われた矢倉甚兵衛さんは漁業で、御坊の大地主の橋本太次兵衛さんが農業と、他にも無理に職業分類に当てはめた方もいました。要は田辺クラブの『雰囲気』に合った人であれば、職業は二の次の様でした。

入会して早々ある人が親切に耳打ちしてくれたことは、先輩にもし質問されても即答しないように言われました。何もかも熟知している人ばかりで、迂闊に答えると『その程度か』と思われると言われ、それを聞いてから入会後に洗礼される新人卓話には、大変な苦痛を感じました。今でもその後遺症に悩んで、なかなか堂々と原稿なしにしゃべれません。

余計なことですが、先程から私が勝手に言っている、田辺クラブの『雰囲気』について、自分なりに鈍才な頭で考えてみました。古い方はまた違った見方もあると思います。

断っておきますが、これは私を除いた田辺クラブの評価で、私も、このような人格者になりたいとの願望からです。「個人々が醸し出している、言葉では表現できない奥ゆかしさ、人柄、教養、品性、控え目でありながら毅然とした風格等々」だと思えます。

それに引き換え、最近の地区のロータリーは、余りにも見るに耐えない不祥事ばかりで、低次元の話が氾濫しています。ロータリー以前の問題であり。全てその人の人間性、かなとも思えます。ロータリーも地に落ちた、と言われても仕方ありません。

田辺クラブの他所からの評価は格式が高く、堅苦しいとのことで、私が入った頃でも、なかなかメイクアップにきませんでした。

チャーターメンバーの脇村正太郎さんが、(初代からクラブ幹事を5回もされた方が)出席委員長の時に、ビジターが退席する時36%に達しないからメイクアップは認めないと忠告していたぐらいで、それだけロータリーは時間と規則には忠実でした。

ところが、記録によると発足までの田辺クラブは、紀南特有のおっとりした性格もあって、一般世間と同じで田辺時間もあり、ルーズな面もあったようです。

時間と規則を厳守するようになったのは、発会式の頃からで、大阪、和歌山の世話役の人達が時間通り、

来るようになってからで、役員が来られあわてて人集めをした記録も残っています。

また、2代目の高垣五一会長の時、R I 5 0周年記念事業に、会員の時間励行表彰に、置き時計を記念品として贈呈しています。また、一般向けに作られた時間励行要項など、箇条書きにしたチラシも残っています。

このようにロータリーは、将来見込みのある人達を勧誘し、ロータリー道場で立派な人材を育成することも、一つの目標とされています。

以前は、現在、無料で配布されている『抜粋つづり』のように、各個人が研究した論文とか、その他ロータリーに関するいろんな小冊子が送られてきました。先輩は時間も有り読書が趣味で、よく読まれ、常に知識を蓄えていましたので、当時は、簡単なロータリーのことなど恥ずかしくて聞けませんでした。その代わり解らなかつたら、『何でも聞きに来い』が田辺方式だったので、それには先ず自分自身が勉強しないと、質問出来ない仕組みになっていました。

幸い、私にとって唯一の知識を得る機会は、派閥ではありませんが、長老達がそれぞれ気のあった者同志で、新地に集まってよく飲んでいるところに再々呼び出され、一杯飲みながらロータリーの話や、いろんな雑学の話や、色々と裏話も教えて頂きました。たまに会長や幹事も呼び出されることもありました。

その頃のIMの議題も『年寄りと若者との交流を如何するか』の問題が再々提案され、全国の古いクラブの悩みの種でもありました。

渡部さんの後期高齢者委員会は、名前は別として昔の方法を踏襲するのではなく、また気配りを強制するつもりでも無いと思っています。私は社会にも老人の日があるように、ロータリーにも高齢者の日があってもいいのではと思っていますが、どうでしょうか。

年度によっては、インフォーマル・ミーティングをやっていますが、その補助として堅苦しくなく、若い会員との四方山話を兼ねたロータリーの話しに会長、幹事も交え、たまには年寄りの話に耳を傾けるのも、田辺のロータリーの本質に触れ、クラブの運営に、少しは役立つのでは。と思いますが如何でしょうか。

つい最近のことですが、と言っても約20年前になります。田辺はまゆうクラブを作る時、例会時間を昼にするか夜にするか、ひと悶着がありました。反対の意見は、夜だけしか出席できないようでは、ロータリアンの資格がないと言うのが主な理由でした。結局は全国に夜間のクラブが増えてきたこと。この近辺には夜間のクラブがないことで、OKになりました。

それだけロータリーは、昼間の時間でも融通がきいて、メイクアップも出来、必ず毎週の例会は勿論のこと、その他の行事にも(飲み会は別です)出席出来る役職の人を選んでいたのでからだと思います。

多少耳に触るかも知れませんが、幹事についての経験を申し上げます。

何をおいても、先ず先輩に気を使うことが最大の役目でした。もともと5年制の旧制中学や旧制商業学校の先輩ばかりで、学生時代の恐ろしさが残っていた所為かも知れませんが。

その頃は自家用車も余りなく、携帯電話もありません。IMや地区大会へのバスの手配など、何処に行くにも細かい連絡が必要で身を粉にして動きました。

当時のIMは、登録料を自腹で払った者だけが、参加していましたので幹事は人集めに大変でした。そのため若い会員にも協力をお願いして、クラブや会長のメンツを潰さないよう頭を痛めました。

会長にも気を使いました。何といっても会長は総会で承認されたクラブの顔であり、しかも先輩です。

会長と一緒に行動する時には、例会でも何処でも、少しでも会長が困ったことにならないよう、心配事が起きないように、先さきのことを考え、クラブ内の会員の動向を耳打ちすることも、大事な役目でした。

会長も理事会や例会で間違ったことを言うと、ところ構わず、すぐ、忠告され、絶えず緊張していました。

この頃はなんとなく、もたついているように見受けられますが、ある程度は緊張感をもって、ゲストやビジターが居る事もお忘れなく。伝統ある古い田辺の威厳を見せて頂きたいと思います。

私はガバナー補佐として新宮クラブを訪問した時感じたことは、会長、幹事に、かすかに昔の面影が残っているように、見受けられました。

昔ある人が大阪ロータリーにメイクアップをした時の話ですが、その頃はテレビがなかったこともあって、小柄な人が親睦のたすきをかけ、大変気がきいて親切にしてくれたので、後で事務所に尋ねると松下幸之助さんと聞いて、びっくりすると同時に成功する人は違うとの話を聞いたことがあります。それだけ昔の人は「相手の身になって」のロータリー精神が、幹事でなくても一般会員でも、誰に言われることもなく、クラブにも他人にも気配りすることが、自然身についていたように思います。

最近の田辺クラブも、少しずつ変わってきたのかな思っています。私は深いロータリーの精神は解りませんが、親睦委員会の動向を見ますと、例会場での出迎えや先日の雨の日に傘をさし掛ける気遣いなど、委員長の指図があったにせよ、些細な奉仕こそロータリーの親睦に繋がっていると思います。

昔は弁当も親睦委員会が片付けていました。私の記憶に間違いがなければ、一時中止していたのを廣本さんが委員長の時、復活しました。その後は引き継がないまま今日に至っています。何も強制するつもりはありません。食べたものは自分で片付けるのが当たり前で、それがロータリーと違うのかと言えば、それも一理があります。しかしロータリーの親睦の意味について今一度考えて見ようではありませんか。

ご清聴ありがとうございました。

